

第4次東村山市子ども読書活動推進計画(案)に関する意見募集(パブリックコメント)の結果

1. 案件名	第4次東村山市子ども読書活動推進計画(案)	
2. 担当所管	(1) 名称	東村山市教育委員会教育部図書館
	(2) 所在地	〒189-8501 東村山市本町 1-1-10
	(3) 電話番号	042-394-2900(直通)
3. 概要	(1) 意見募集期間	令和2年12月21日(月)~令和3年1月15日(金)
	(2) 周知方法	東村山市ホームページ、市報ひがしむらやま令和2年12月15日号、資料設置場所でのポスター掲示等
	(3) 資料等の設置場所	市情報コーナー、いきいきプラザ総合窓口、ワンズタワー内地域サービス窓口、中央公民館、萩山公民館、秋津公民館、富士見公民館、廻田公民館、中央図書館、富士見図書館、ふるさと歴史館、市民スポーツセンター、多摩湖ふれあいセンター、恩多ふれあいセンター、栄町ふれあいセンター、久米川ふれあいセンター、青葉地域センター、秋水園ふれあいセンター、美住リサイクルショップ、社会福祉センター、子育て総合支援センター(ころころの森)、萩山図書館、秋津図書館、廻田図書館(24か所)
4. ご意見をお寄せいただいた人数	計6名(内訳:各施設での提出2名、郵送での提出1名、ファクシミリでの提出0名、市ホームページでの提出3名)	
5. お寄せいただいたご意見の数	35件	
6. お寄せいただいたご意見の内容と市の考え方	別紙の通り	

- ・ お寄せいただいたご意見の中に複数にわたる内容が記載されている場合は、項目ごとに分割するなど整理して記載しています。
- ・ また、明らかな誤字・脱字等の修正を除き、可能な限り原文のまま掲載しています。
- ・ 語句等の誤りに対するご指摘については、最後にまとめて掲載しています。

		ご意見	市の考え方
1	計画全体	<p>計画全体について</p> <p>読書を通して子どもたちの心を育むために、まず①図書に親しみ、②良い本と出会い、③読みっぱなしではなく読書を「経験」として蓄積していくことが大事だと思います。</p> <p>計画では①、②に主眼が置かれています。③についても目的に明記し、感想を言葉にして表現したり、他者の感想に触れたりする機会を設けることを方針として組み込んでほしいと思います。</p> <p>具体的な取り組みとしては、子どもたちから感想を募ったりお話会で出た感想や子どもの様子を短いコメントでまとめたりして、ポップにして図書館に掲示するのも一案だと思います。</p>	<p>子どもが 1 冊の本をどのように読み取り、どう感じたか、考えや気持ちを表現し、他者と共有することは、読みが深まり大切なことだと考えます。また、他者の感想に触れることで、新たな本との出会いや他者の考え方に触れるきっかけになります。一方で、子どもの心の中にしまっておく自由も大切にしたいと考えます。これまでも小・中学校や市立図書館で、薦めたい本のコメントを手紙仕立てにして届ける「読書郵便」や、本にコメントを付けて紹介する「マイベストブック」の展示等をおこなっております。本計画においても、ご意見の通り、読書を「経験」として蓄積することができるように、「市立小学校・中学校図書館の取り組み」「小学生への取り組み」「中学生への取り組み」への記述を加えたいと考えます。</p>
2	計画全体	<p>計画全体について</p> <p>読書経験の蓄積のためには、読書の記録を残す取り組みも重要だと思います。「たくさん本を読んだ」「いろいろなジャンルの本を読んだ」ということが記録として残ることは、自信や良い思い出になり、さらなる読書への動機づけになります。再読を促す効果もあり、感性をさらに磨いたり学びを深めることに寄与すると思います。</p> <p>具体的には、例えば読書通帳です。第三次計画のパブリックコメントへの回答で、導入について「システム更新時に検討」とありました。現在のところ導入に至っていませんが、是非導入して欲しいと思います。早急な導入が困難でも、書名や日にちを記録できる通帳形式の簡単な用紙を作り、配布することから始めるのも良いと思います。</p>	<p>ご意見の通り、読書の記録を残すことは励みにもなり、読書意欲の向上に有用であると考えます。「読書通帳」については、ご指摘の通り市立図書館のコンピュータシステム更新時に検討しました。現段階では、ホームページ上に掲載しておりますダウンロード用の「読書記録ノート」（「思い出♡絵本」「いい本みつけた!」「ほんほんほん♪ほんのきろく」の3種）について、更なるPRを進めるとともに、館内での配布も進めるように努めます。</p>

3	1 ページ	<p>第 1 章 1.計画の目的</p> <p>「計画の目的」(1 ページ)にある「本に会う」は「本に出会う」と直した方がよいかと思います。同様の表記はほかにも出てきますが、出会う相手が人ではなく、物の場合は「出会う」が適切な表記だと思います。</p>	<p>「出会う」は、「生涯忘れられない作品と出会う」というように、その人にとって価値あるものに触れる際に使われることもあります。<『新しい国語表記ハンドブック』(2018 年 三省堂)参照>本計画では、子どもと本の出会いが意義あるものになるように願いを込めて、また、「出会う」「出会う」と使い分ける煩雑さを避けるために、第 1 次計画時より、「出会う」を使っています。</p>
4	4 ページ	<p>第 1 章 4.計画の位置づけ</p> <p>「計画の位置づけ」(4 ページ)の「主な関連計画」として「東村山市第 2 次生涯学習計画」だけが挙げられていますが、第 3 次東村山子ども読書活動推進計画においては、「東村山市子ども・子育て支援事業計画」も挙げられています。なぜ今回は表から外したのでしょうか。</p>	<p>今回外した「東村山市子ども・子育て支援事業計画」のほか「多文化共生推進プラン」「東村山市特別支援教育推進計画」等も広い意味で関連計画として位置付けていますが、図に示しただけでは関連性が説明しきれないことから、今回は省略しました。各計画との整合を意識しながら進めていきます。</p>
5	6 ページ	<p>第 2 章 2.(2)主な課題①</p> <p>学校図書館の蔵書数については、図書購入予算額の増額～蔵書数を増やす努力をしてきた。</p> <p>9 ページでは学校図書館図書購入関係は学務課が担当されているようですが、これも予算要求の資料としているかもしれませんが、文部科学省の平成 28 年度「学校図書館の現状に関する調査」結果によりますと、百科事典や図鑑などの共通教材の配置状況でセットで配備している学校の割合は小学校 95%、中学校 94.1%となっています。刊行後の経年数別内訳で 10 年以上が、小学校 55.3%中学校 62.6%となっています。内容はそんなに変わらないのかもしれませんが、調べ物をするときは資料の奥付で発行(出版)年をみてしまいますね。</p> <p>また、青葉小などコミュニティ・スクールが導入されていて、図書ボランティアが学校運営協議会の方々と情報交換する機会があると思われませんが、蔵書数や学校図書館専任司書のことについて話題になったりしないのでしょうか。</p>	<p>学校図書館の課題については、「学校図書館推進部会」を中心に協議していますが、ご意見にあります文部科学省の平成 28 年度「学校図書館の現状に関する調査」結果も参考にしながら、蔵書数や蔵書内容の充実に向けて検討しております。児童向けの百科事典は、高価で出版自体が少ない(ほぼ 10 年に一度刊行)ため、更新する機会は少ないのですが、調べ学習の基礎として各校で最新のものを配備するように努めています。また、ご意見の通り、調べる際に本の奥付を確認することは、各校の図書館利用オリエンテーション等で指導しています。</p> <p>現在、コミュニティ・スクールは青葉小学校と回田小学校の 2 校をモデル校に指定しています。学校運営協議会では、学校の取り組みや課題について協議しておりますので、PTA 二者懇談会や東村山学校図書館ボランティアの会等も含め、様々な会から学校図書館に対するご意見をいただき、参考にしながら進めていきたいと考えています。</p>

6	6 ページ	<p>第 2 章 2. (2) 主な課題②</p> <p>学校図書館専任司書の配置拡大について～絶対的な配置日数の不足が課題となっていた。配置拡大に向けて引き続き、検討が求められる。</p> <p>もうすでに予算要求の資料とされているかもしれませんが、文部科学省の調査(平成 28 年度「学校図書館の現状に関する調査」)の中に授業日数のうち開館日数の割合があります。小学校は 93.8%、中学校は 82.7%となっています。(恐らく貸出が可能な昼休みの時間帯に配置されていると思われます。)多摩六都や近隣の図書館とも比較されてみてはいかがでしょうか。(1校週 4 日ぐらいになると良いと思いますが、図書館が削られるようなことはさげたいですね。)</p>	<p>文部科学省の調査結果や近隣自治体の状況を参考にしながら、当市の学校図書館専任司書配置事業の充実に努めてまいります。</p>
7	6 ページ 7 ページ	<p>第 2 章 2. (2) 主な課題②③</p> <p>②と③については具体的な内容の記載がありませんが、どちらも多くの予算を組まなくては実現が難しいでしょう。ならばコンセプトである「子どもと本をつなぐ大人たちが連携し、「本と人の輪」の中で読書の喜びを子どもに伝える」ために、②の学校図書館専任司書の配置拡大が一番早急に対応しなくてはならない課題と思います。</p> <p>なぜなら、現況では学校図書館専任司書は週 2 日 1 日 5 時間で 2 校掛け持ちであり、子どもの読書活動を支える取り組みとしては不十分だからです。</p> <p>子どもの読書活動推進には子ども達に寄り添う学校図書館専任司書の存在は不可欠で、課題①の様な必要な蔵書の質と量の両面での充実にも、担当する学校の蔵書を把握し、その学校の子供達にどの様な本を求めまたは読むべきかを把握している学校図書館専任司書の存在が必要です。</p> <p>担当する学校にどのような子どもが通っているか、それは課題④の図書館が利用しにくい子ども、外国につながる子どもや、⑤の障害のある子どもも含め、きめ細かな対応が出来る体制を整えることにもつながります。そしてい</p>	<p>ご意見の通り、学校図書館専任司書の配置が十分でないことは課題として受け止めております。第 4 次計画では、「市立小学校・中学校図書館の取り組み」を重点事業に位置付け、学校図書館専任司書の配置拡大を含む総合的な学校図書館整備をステップ 1 から 3 の段階に分けて示しています。ステップ 1 の「蔵書の充実」については、計画期間を通して質量両面の充実を目指しつつ、同時にステップ 2 の「学校図書館専任司書の配置拡大」を目指していきたいと考えています。学校図書館専任司書の役割が、学校の中の様々な課題の対応につながることは認識していますが、図書館利用がしにくい子ども、外国につながる子ども、障害のある子どもへの読書については、学校図書館専任司書を含めた学校全体で取り組んでまいります。</p>

	<p>つどんな子どもが図書館に訪れても変わらぬ笑顔で迎えてくれ、その手に本を手渡す確かな知識を持った大人が必要です。それが読書だけに留まらず、子ども達の心の安定と成長の大きな手助けとなります。学校図書館司書の役割は非常に重要です。日にちや時間によって、図書館に居たり居なかったりしては十分に対応できません。</p> <p>それゆえ、1人2校を掛け持つのではなく、何としても1人1校を実現していただきたい。そして、週2日ではなく、出来る限り毎日又はそれに近い日数を勤務していただきたい。</p> <p>そうすることで、司書の立場からも収入などの面が安定し、良い人材を確保することにつながります。市はそのためにもっと予算を組むべきと思います。</p> <p>経済格差が大きくなっている今、誰でも本が買えるわけでは無いのです。どの子どもでも安心して本を読める環境を整え、読書によって自分の未来に希望を持てる子どもを育てるのは地域、行政の急務と思います。子どもが子どもでいる時期は短いのです。</p> <p>第3次東村山市子ども読書活動推進計画(42ページ)でも検討課題として取り上げておりましたが、残念ながら解決には至っていません。第4次ではもっと進展することを願います。</p>	
--	---	--

8	(7ページ) 9ページ (15ページ)	<p>第3章 1.(1) 行政内の体制</p> <p>行政内の体制が表になっていて、各部署がどのような業務を担当するのか分かりやすく、一つの表になっていることで読書推進が一体となって取り組まれていくと感じました。</p> <p>ただ、情報政策課が学校図書館コンピュータシステム導入となっていました。15ページのステップ3コンピュータシステム導入の項目の右側には、学務課と図書館のみが表記されています。</p> <p>文章も「コンピュータシステム導入に向けた取り組みをすすめます。」となっているのでこの計画期間内には導入はないようにも読みとれます。</p> <p>導入されない理由は予算が影響しているのでしょうか。課題となっているのは何でしょうか。ボランティア体制も近隣市に比べ整っているように思いますし、学校図書館への団体貸出を行っていたりするので市立図書館で一元管理してもと思います。</p>	<p>9ページの表は、「行政内の体制」として「学校図書館推進部会」に属する情報政策課を入れていますが、15ページは、「教育委員会」の取り組みのページなので、教育委員会内の担当課を記載しました。3つのステップはどれも大切な項目であることは認識していますが、まずコンピュータシステム導入準備に現場職員として中心的に関わる学校図書館専任司書の配置拡大を目指し、その後コンピュータシステム導入をする、そのようなステップが事業効率もよく、望ましいと考えています。コンピュータシステム導入の検討をしていく際、今回のご意見も参考にさせていただきます。</p>
9	12ページ	<p>第3章 2.乳幼児への取り組み</p> <p>小さい子供をもつ保護者が絵本を選ぶ機会を作るための環境作りを希望します。多種多様な中から絵本を選ぶことは、保護者にとっても喜びです。読み聞かせの重要性はわかっている、小さい子を連れては身軽に動けなかったり、ゆっくり本を選ぶ時間がなかったりします。例えば、お話会の間、ボランティアの方（保育士資格を持つ方など）が子どもを見てくれて、親は子どもから少し離れて絵本をゆっくり選ぶことができるなどの取り組みがあるととてもありがたいです。また、中央図書館の幼児向け絵本のコーナーは死角が多く、段差もあるため、小さい子供と一緒に落ち着いて本を選べません。このような環境の整備も重要ではないかと思っています。</p>	<p>図書館で乳幼児をもつ保護者の方にゆっくり本を選んでいただくことは、家庭での読み聞かせの充実につながる大切なことであると考えております。「乳幼児への取り組み」<市立図書館>①の文章に“絵本コーナー等”を加え、「来館者が選びやすいように絵本コーナー等を整備するとともに、…」とし、書架レイアウトも含め環境整備に努めてまいります。おはなし会は親子と一緒に楽しんでいただきたいと考えていますが、保護者の方がお子さんと離れてゆっくり選ぶ時間をつくるための取り組みについては、どのようなことが実現可能であるか、検討したいと思います。</p>

10	12 ページ	<p>第3章 2.乳幼児への取り組み</p> <p>乳幼児期の読み聞かせは、子どものことばを育て、感性を豊かにするために大切です。～</p> <p>子どもに絵本を読ませてあげたくなるリード文ですね。ブックスタートでもこのようなお話しをされるんでしょうね。一人でも多く子育て中のお父さんお母さんに本(絵本)のすばらしさが伝えられたらいいなあと思いました。</p>	<p>第4次計画期間にも引き続き、3～4か月児健診等いろいろな機会をとらえて、乳幼児の保護者に読み聞かせの楽しさ・大切さを伝えていきたいと考えております。</p>
11	12 ページ	<p>第3章 2.乳幼児への取り組み</p> <p>ふだん働いているお母さんはなかなか子どもを連れて図書館を利用するのは難しく思えます。また、予防接種や親や子の病気で行くクリニックには絵本が全然ない所もあります。クリニックは家事から離れて子どもを本にふれあえる機会と思えます。市内のクリニック(耳鼻科、眼科、歯科なども)に絵本の貸し出しや貸し出しに引きそうな本の寄付をつのるのはどうでしょうか？</p>	<p>東村山版ブックスタート「子育て中にたくさん絵本と出会えるまち」づくりの一環として、平成24年度に多摩北部医療センターの小児科待合室に「おすすめ絵本パック」を設置しました。今後は、ほかのクリニックに対しても親子が絵本に触れる機会を広げるために、どのような取り組みができるか検討してまいります。</p>
12	15 ページ	<p>第3章 3.市立小学校・中学校図書館の取り組み(重点事業)</p> <p>〈15 ページ 市立小学校・中学校図書館の取り組み(重点事業)〉</p> <p>6ページの(2) 主な課題が重点事業の中心になるかと思いますが、重点事業がどれかというのが(文字がタイトルと一緒にあって)分かりにくかったので、重点事業の文字だけ字体や文字にしてみるとか、まだ記述はないので分かりませんが、「はじめに」のところで触れてみてとも思いました。</p>	<p>ご意見の通り、重点事業であることをわかりやすい表現に改めます。</p>

13	15 ページ	<p>第3章 3. 市立小学校・中学校図書館の取り組み(重点事業)</p> <p>重点事業となっている「市立小学校・中学校図書館の取り組み」(15 ページ)ですが、「段階的な学校図書館整備のイメージ」のステップ3に出てくる「コンピュータシステム導入」の説明がもっと必要なのではないのでしょうか。なぜ「コンピュータシステム導入」の指標が「貸出冊数」となるのか、7 ページの説明を読んでも41 ページの用語説明を読んでも理解できないと思います。具体的な導入事例を挙げ、そこでは導入後にどのような成果が出たのかを、コラム的にでもいいですから、説明しない限り、誰も「学校図書館コンピュータシステム」をイメージできず、その必要性も理解できないと思います。</p>	<p>現在、学校図書館の本の貸出・返却は、貸出カードに記入する方法でおこなっています。例えば図書の時間にクラス全員が1冊ずつ本を借りる場合、書名の記入や受付等に多くの時間を費やしています。貸出冊数を2冊に増やせば、手続きに2倍の時間がかかり、授業時間内に手続きが終わらないことが予想され、貸出冊数を増やせない現状があります。コンピュータシステム導入が実現すれば、貸出カードのバーコード、本に貼ってあるバーコードをバーコードリーダーで読み込むだけの手続きで済み、時間短縮となり、貸出冊数を増やすことが可能となります。また、コンピュータで蔵書管理をおこなうことで、読みたい本の検索や予約が容易になり、読書活動の推進にもつながります。コンピュータシステム導入についての説明が足りなかった点は、用語説明に説明を加えるなど工夫して、本計画に反映させていきます。</p>
14	15 ページ	<p>第3章 3. 市立小学校・中学校図書館の取り組み(重点事業)</p> <p>もうすでに行っているかもしれませんが、指導室から小・中学校へ依頼し、アンケートを取られてみてはいかがでしょうか。生活習慣や学校生活等について子どもたちにたずねてみて、定期的に行えば見えてくるものがあると思います。それを予算要求の資料にしてみても。</p> <p>アンケートの例</p> <p>調べ学習や自分の興味関心を広げるための本を読んだり借りたりするために</p> <p> [①学校図書館 ②地域の図書館] を利用して いますか。 </p> <p>・あてはまる ・ややあてはまる</p> <p>・どちらかと言えばあてはまらない ・あてはまらない ・無回答</p> <p>ベテランの学校図書館専任司書の方を配置変えなどし、1年もすれば「あてはまらない」の%が下がるなどその効果があるはずです。</p>	<p>小・中学校の児童生徒と学校図書館担当者(司書教諭等)を対象としたアンケートや、本計画策定時の市立図書館来館者(子ども・保護者)へのアンケートにより、学校図書館や市立図書館の利用状況を把握し、今後の取り組みに活かすよう努めております。</p>

15	15 ページ (6 ページ)	<p>第3章 3.<教育委員会>①段階的な学校図書館整備のイメージ ステップ1 蔵書の充実 (指標:「図書標準」*達成率)</p> <p>小・中学校図書館の蔵書数について、図書購入予算の増額等努力してきたとありますが、各校の蔵書数や年間の購入冊数や金額などデータがあると良いと思いました。それぞれの学校があと何年で達成するのかが見えません。あと数年で達成であれば学校図書館専任司書の拡大に力を注いだらと思いました。</p>	<p>現在、購入図書の受け入れや廃棄に関する事務手続きは適正におこなっているものの、手作業で蔵書数や貸出数のカウントをせざるを得ない状況にあります。寄贈図書の受け入れや古い本の廃棄の進度が各校で違うことなどの理由で、数値だけを並べた資料を示すのはかえって蔵書の状況がわかりづらいと考えました。仮にあと1年で図書標準を達成したとしても、翌年大規模な整備により廃棄をすれば蔵書数が減ることもあります。計画期間を通して質を伴う図書標準を満たし、その状態を維持することを目指しています。</p>
16	15 ページ (6 ページ)	<p>第3章 3.<教育委員会>①段階的な学校図書館整備のイメージ ステップ2 学校図書館専任司書の配置拡大</p> <p>指標が授業での活用件数とありますが、専任司書の配置日数や時間があっても良いと思いました。</p>	<p>学校図書館専任司書は、平成23年度後期から1校週2日、1日5時間で配置しています。配置以前は、学校図書館で保護者や地域のボランティア活動が盛んだったため、配置時は専任司書の配置目的のひとつを「授業での活用」としてスタートしました。そのような経緯で、第4次計画においても、指標を「授業での活用」としています。拡大の具体的な内容(配置日数や時間)については、明記していませんが、拡大によって、より教員と連携して授業に関わり、学校図書館を通じた児童生徒の学びを深めていくことを目指しています。</p>
17	15 ページ	<p>第3章 3.<教育委員会>①段階的な学校図書館整備のイメージ ステップ2 学校図書館専任司書の配置拡大</p> <p>休み時間の生徒の居場所としても学校図書館は意義があります。クラス以外の居場所があることによって不登校を防げたケースもありえると思います。中学生は多感な時期なのに管理上の問題で週2日しか開館していません。中学校から先に司書配備を拡大してほしいです。(司書教諭も担任・学科・部活などの関係で開館業務を頼むのは難しいです)</p>	<p>学校図書館は、児童生徒の読書の自由を保障し、落ち着いて過ごせる居場所として大切な役割をもっています。中学校図書館の開館時間の拡大に向けて、学校全体で体制を整備するよう努めます。また、学校図書館専任司書の配置拡大によって、学校司書を授業での活用する機会を増やすとともに、児童生徒の「心の居場所」としての役割を果たすことができるように努めます。</p>

18	15 ページ (6 ページ)	<p>第 3 章 3.<教育委員会>①段階的な学校図書館整備のイメージ</p> <p>ステップ3 コンピュータシステム導入</p> <p>指標が貸出冊数とありますが、一人当たりの貸出可能冊数が変動する(一部の児童・生徒しか利用していないことも考えられるので)ことも考えられるので、各校の児童・生徒数と利用者数(ある一定期間に一度でも利用した人数)の割合でとらえても良いのではと思いました。これに関しては、児童・生徒等アンケートをとってもよいかと。調べ学習や自分の興味関心を広げるための本を読んだり、借りたりしているか。学校図書館と公立図書館と2つ設問を分けて。(学校が行うアンケートに入れて調査する)イメージ図からすると学校図書館専任司書の配置拡大(各校一名?)が実現しないとコンピュータシステムの導入はないように思いました。地区館のない地域(諏訪町や野口町など)には、特に学校図書館の充実を期待したいです。</p>	<p>現在の児童生徒の学校図書館利用状況については、児童生徒と学校図書館担当者(司書教諭等)を対象にしたアンケートや、本計画策定時の市立図書館来館者(子ども・保護者)へのアンケートで概ね把握しています。コンピュータシステムを導入した折には、指標の「貸出冊数」をひとり当たりの冊数や月間や年間の冊数等、様々な角度から算出し、利用の割合も含めて利活用の状況を検証していきたいと考えています。コンピュータシステム導入には、蔵書の整備、レイアウト変更、コンピュータへのデータ登録等の事前準備、導入後の利用案内や指導等各校ごとにたくさんの業務がありますので、導入前に学校図書館専任司書の配置拡大をおこなうメリットが大きいと考えます。市立図書館(地区館を含む)まで遠い地域については、学校図書館の充実と併せて、児童館やふれあいセンター図書コーナー等の本の充実にも努めてまいります。</p>
19	16 ページ	<p>第 3 章 3.<学校>【体制】①</p> <p>16 ページにある【体制】の①にある「学校図書館指導計画」とは何ですか。「学校図書館全体計画」は調べて何とかわかったのですが、「学校図書館指導計画」はネット検索でも出て来ません。各自治体の学校ごとに立てている「学校図書館を使った年間指導計画」は出て来るのですが。</p>	<p>「学校図書館ガイドライン」(平成 28 年文部科学省通知)には、「校長は、学校教育における学校図書館の積極的な利活用に関して学校経営方針・計画に盛り込み、その方針を教職員に対し明示するなど、学校図書館の運営・活用・評価に関してリーダー・シップを強く発揮するよう努めることが望ましい」、「司書教諭は、学校図書館の専門的職務をつかさどり、学校図書館の運営に関する総括、学校経営方針・計画等に基づいた学校図書館を活用した教育活動の企画・実施、年間読書指導計画・年間情報活用指導計画の立案、学校図書館に関する業務の連絡調整等に従事するよう努めることが望ましい。」とあり、各学校で「学校図書館全体計画」「学校図書館指導計画」を立てています。「学校図書館指導計画」は、各学年・教科ごとの学校図書館活用や読書指導等の計画を指し、名称は同一ではありませんが、「学校図書館を使った年間指導計画」と同じ内容のものです。</p>

20	16 ページ	<p>第3章 3.<学校>【指導】</p> <p>分類のしくみ、本の探し方、調べ方を指導し、インターネット情報と併せて学校図書館を活用する力や情報を収集・活用する力を育てます。</p> <p>7/15 号の市報でGIGAスクール構想の実現に向け市立小・中学校の児童・生徒に1人1台端末を配備するために活用とありました。1人1台コンピュータの学習環境を最大限に活用し、だれ一人取り残さない、個別最適化された学びの実現や、最先端のICTと、これまで蓄積された教育実践との融合が図られ、児童・生徒の力を最大限に引き出すことが、この構想では求められているのではないのでしょうか。学校側でも1人1台のコンピュータでどのような学びが実現できるのか検討されているかと思います。図書資料とインターネットを使った調べ学習（インターネットの情報には注意が必要になることもあるかもしれませんが）が今より進んだり、ビブリオバトルやブックリストもコンピュータの力を借りてやっていく方法もあるかもしれませんね。</p>	<p>新学習指導要領では、情報活用能力を言語能力と同様に、学習の基盤となる資質・能力と位置付けています。学校図書館が情報活用能力育成の一端を担うことができるように、更に整備し、利活用の促進をはかることが必要であると考えています。インターネットを使った調べ学習や、ICT を活用した本の紹介等読書指導についても、適切な方法で取り組みを進めるように努めます。</p>
21	17 ページ	<p>第3章 4.小学生への取り組み</p> <p>小学生のところは、中学年、高学年で分けて説明があるといいなあと思いました。</p>	<p>個人差はありますが、低学年は、大人が読んで聞かせたり、自分で絵本や絵の多い物語などを楽しむ時期ですが、中学年以降は、いわゆる「ひとり読み」ができるようになる時期と考えてまとめて記載しております。</p>
22	17 ページ と 21 ページ	<p>第3章 4.小学生への取り組み、5.中学生への取り組み、6.高校生等への取り組み</p> <p>幼児から小学生まで、絵本読み聞かせなど、とてもよい質の高い活動をしていると思います。あとは、中高生向けの展開を期待したいです。ビブリオバトル、ブックトークなどもされていてよいと思いますが、読書感想＝ライティング（書く）などの可能性はありますか。「書くことを通して、自分の考えを客観化し、読みを深める」というプロセスは読書体験の力になるかと思います。今、文部科学省も「思考力、判断力、表現力」重視という、アウトプット型学びを推進しようとしており現在性があるのでは？3密回避にも有効です。</p>	<p>中高生向けの取り組みについては、その世代特有の生活実態や趣向に沿って、読書環境の整備や動機付けをはかっていきたいと思います。</p> <p>読んだ本についての感想や考えを書くという作業は、ご意見の通り、読書体験をより豊かなものにするための学びのひとつであると思います。既に小・中学校では、いわゆる感想文や紹介文を書く取り組みは取り入れています。読書感想を国語の言語活動としての「書くこと」に結び付けておこなうことで、より深く本を読み取ることができ、結果的に読解力の向上につながるのではないかと考えますので、授業の中で進めていくように努めます。</p>

23	17 ページ く 21 ページ	<p>第 3 章 4.小学生への取り組み、5.中学生への取り組み、6.高校生等への取り組み</p> <p>すでに読書習慣が身についている子どもに、さらに豊かな読書経験を提供するような取り組みを期待します。例えば司書が選んだ図書を中身が見えないように包装して貸し出す(図書館で「お楽しみパック」として取り組んでいるものです)などです。学校図書館で実施したり、図書館でも通年で実施すれば、興味関心の幅を広げる良い機会となると思います。</p>	<p>第 4 次計画では、どの子ども取り残さないという考えのもと、読むことが苦手な子どもや本に興味をもたない子どもについての取り組みに触れていることが特徴のひとつです。すでに読書習慣が付いている子どもに対しても、より豊かな読書経験ができるように学校図書館や市立図書館等で工夫して取り組んでいきます。特に小学生への本選びの手助けとしてこの手法が有効と考えますので、「小学生への取り組み」<市立図書館>の中に、「お楽しみパック」を記載することにいたします。</p> <p>また、「お楽しみパック」の手法を学校図書館専任司書に案内したり、市立図書館での実施の拡大について検討したりしながら、いろいろな本との出会いの機会をつくっていきます。</p>
24	18 ページ	<p>第 3 章 4.小学生への取り組み<小学校><児童館><児童クラブ・育成室></p> <p>意見募集期間内に、地区館(図書館)がない、諏訪町や野口町などの学校の図書館の(蔵書)充実をと書きましたが、野口町には北山児童館があり、職員(スタッフ)の方に確認したところ、児童向けの本がありますよとのことでした。実態把握もせず、書いてしまい申し訳ありませんでした。子どもたちの身近なところに本があることが一番だと思います。市立図書館の利用者や貸出冊数が減ったとしても、児童館などの施設で興味のある本が読めれば良いですね。</p>	<p>ご意見の通り、子どもの身近な場所に本があることが大切だと思います。本との出会いの場所が充実するように、市内全体の読書環境の整備に努めてまいります。</p>

25	23 ページ	<p>第 3 章 8.東村山の特色を活かした取り組み</p> <p>東村山市のいのちの教育や人権教育重視は日本でも貴重な価値があるので、アウトプットとしてライティングがあると、その理解促進を深く対象化する方法になるように思います。こうした学びは東村山市の生涯学習と連動する可能性もある気がします。場所、時間、方法、展示、人材育成の問題などありますが一考の価値はあるのではないのでしょうか。</p>	<p>読書感想のライティングではありませんが、全国中学生人権作文コンテスト東京都大会に市内の中学生が多数応募しています。東村山市「いのちの教育」推進プランや「いのちとこころの人権の森宣言」のもと、人権について考える機会が多い当市の中学生が、自分の感じたことを文章でアウトプットする形のひとつであると考えます。また、紙芝居サークル「原っぱ」は、幼児、小・中学生、高校生、大人まで紙芝居を上演していますが、作品に対する思いのこもった感想文が届くとのこと。読書の経験をライティングを含め様々な方法でアウトプットし、学びを深め、ひいては生涯学習につながるように努めてまいります。</p>
26	27 ページ	<p>資料 1 第 3 次計画(平成 27 年度～令和 2 年度)の主な実績</p> <p>子ども向け図書の貸し出し冊数や、子どもの利用回数など、子どもの読書習慣についてわかる情報を「こどもの読書の概況」として開示してほしいと思います。それだけで正確には内実を把握できませんが、おおまかにでも実情を掴むことや経年的な変化を追うことは計画を推進する上で重要だと思います。</p>	<p>資料 1「第 3 次計画(平成 27 年度～令和 2 年度)の主な実績」(計画案 27 ページ～36 ページ)は、ページ数の関係もあり、5 ページ～6 ページに記載した第 3 次計画の主な成果として挙げた文章を補足するための資料を中心に付けております。市立図書館の児童書の蔵書冊数、貸出冊数、利用登録者数等は、毎年度『財産表並びに事務報告書』に掲載、公開しております。ご意見の通り、経年での変化を把握、分析しながら、適切に計画を推進していくように努めます。</p>
27	27 ページ と 30 ページ	<p>資料 1 第 3 次計画(平成 27 年度～令和 2 年度)の主な実績</p> <p>令和2年度の実績については、(2) 乳幼児向けおはなし会へのボランティア派遣状況①派遣か所・回数・ボランティア人数・子ども的人数(28 ページ)のところと、(4) ボランティア養成のための講座の下段にあります(30 ページ)が、27 ページの①市立図書館と図書館関連団体の主な共催事業、②市立図書館「子どもと本と人材バンク」からの団体派遣の状況には表記がありません。</p>	<p>27 ページの(1) 市民協働による事業①市立図書館と図書館関連団体の主な共催事業については、イベントの参加者数を記載することにしました。②市立図書館「子どもと本の人材バンク」からの団体派遣の状況については、記載方法が複雑になるため、掲載しておりません。</p>

28	34 ページ	<p>資料 1 (8) 学校図書館支援(市立図書館から)</p> <p>学校図書館専任司書と司書教諭等学校図書館担当教員への研修があったり、「学校図書館の手引き」の発行、市立図書館と学校図書館専任司書(支援担当)による支援など学校図書館を支援していこうという意欲が伝わってきます。(34 ページの平成 28 年度の第三・四中学校への昼開館支援などからも一体感を感じます。)(39 ページのアンケート、市立小・中学校(教員)の回収部数からも関心が高いことが感じられました。)</p>	<p>第 4 次計画においても、アンケートの意見を取り入れながら、引き続き市立図書館を始め、教育委員会の各課が連携して学校図書館を支援し、学校での読書活動の充実を目指していきます。</p>
29	(24 ページ) 36 ページ	<p>資料 1 (11) 図書館関連団体の表彰・受賞実績一覧</p> <p>昨年、日本テレビの『ぶらり途中下車の旅』でくめがわ電車図書館が紹介されていました。今まで写真で外観は見えていたが、中の様子は初めて。コロナ禍で活動ができないでしょうが、とても楽しそうな雰囲気が伝わってきました。他の関連団体もケーブルテレビなどでも取り上げてくれると良いですね。</p>	<p>くめがわ電車図書館は車体を利用した図書館という魅力や珍しさもあり、テレビや雑誌等によく取り上げられています。紙芝居サークル「原っぱ」もケーブルテレビで取り上げられたことがあります。どの団体の活動も広く知っていただき、子どもの読書に関心をもつ市民が増えるように、PR していきたいと考えています。</p>
30	39 ページ	<p>資料 4 第 4 次計画アンケート概要</p> <p>アンケートに回答した市民はもともと読書に関心が高い層です。乳幼児検診の機会を利用したり、小中学校に依頼したりして、読書習慣のない層(読み聞かせをしたいと思ってもできていない層を含む)や子ども自身の声を吸い上げ、取り組みに活かすことが必要だと思えます。</p>	<p>3~4 か月児健診には、毎回職員と読み聞かせボランティアが出向いているので、保護者の読書や図書館利用に対する状況は概ね把握しています。小・中学校に対しては、定期的に読書に関するアンケートを実施し、読書習慣のない層や子ども自身の声の収集や分析もおこなっています。第 4 次計画策定についてのアンケートという形ではないため、39 ページには掲載していませんが、今後もこのアンケート等を参考にしながら、計画を進めていくように努めます。</p>

31	41 ページ	<p>資料 6 用語説明</p> <p>資料 6 の「用語説明」は第 3 次東村山子ども読書活動推進計画同様、その用語の初出ページが明記されていますが、できれば初出の用語の部分にも、この用語には説明があることがわかるように記号や該当する用語説明のページを明記してくれると、ありがたいです。</p> <p>例えば 16 ページに出てくる「子ども読書の日」。私は用語説明があると思わず「いつなんだろう。不親切だなあ」と思いながらネットで調べてしまいました。その用語に説明があるとわかる方がありがたいですし、できれば他の計画などで見られるように、初出のそのページの下に用語解説があると、より理解しやすいと思います。</p>	見やすく、わかりやすい用語説明に努めます。
32	指定なし	<p>冬休みお楽しみパック について</p> <p>“子ども読書”に特化してはいませんが、子ども用のパックもあり、内容が図書館職員の豊富な知識に裏付けられていて選書も面白いと思います。長年の積み重ねからお勧めしてくれる本のクリスマスプレゼントの様です。これについての記載があっても良いかと思いますが、見たところ見当たらない気がします。もし見逃しているのでしたらすみません。</p>	「冬休みお楽しみパック」は、図書館職員が選んだ数冊の薦めたい本を、中身が見えないように包装して貸し出す取り組みで、赤ちゃんから大人までの利用者を対象としています。特に小学生への本選びの手助けとしてこの手法が有効と考えますので、ご意見を受けて、「小学生への取り組み」<市立図書館>の中に、「お楽しみパック」を記載することにいたします。
<語句等の誤り>			
33	28 ページ	<p>資料 1 (2) 乳幼児向けおはなし会へのボランティア派遣状況</p> <p>数字にカンマがない。カンマの有無や右寄せなど他の表と統一したほうがよいのでは？</p>	ご指摘の通り、本計画では表記を訂正いたします。
34	35 ページ	<p>資料 1 (9) 学校図書館支援(教育委員会から)</p> <p>「合同研修」の表にある「年度」の「平成 2」は「令和 2」では？</p>	
35	41 ページ	<p>資料 6 用語説明</p> <p>「用語説明」の「学校図書館コンピュータシステム」にある「データベール化」は「データベース化」では？</p>	